

訪問看護師のリアリティ・ショックが従業員エンゲージメントに及ぼす影響の分析

—業務特性を踏まえたオンボーディング施策の検討—

氏 名 下川 知悟

指導教員 平田 エマ

要旨

本研究は、訪問看護師が入職初期に経験するリアリティ・ショックに着目し、その構造と従業員エンゲージメントへの影響を明らかにする。そして、得られた知見を基に A 訪問看護ステーションにおけるオンボーディング施策の構築に資する示唆を導くことを目的とした。

訪問看護業務は、高い自律性や判断責任を伴う業務特性を有しており、入職初期に特有の戸惑いや心理的負担が生じやすいと考えられる。しかし、こうした業務特性を踏まえてリアリティ・ショックを体系的に検討した研究は十分とは言えない。そこで本研究では、訪問看護師を対象としたインタビュー調査により入職初期の経験を整理し、その結果を基に質問項目を作成したうえでアンケート調査を実施する混合研究法を用いた。

分析の結果、訪問看護に特有のリアリティ・ショックは複数の側面から構成され、特定の側面が従業員エンゲージメントの低下と関連していることが示された。また、オンボーディング施策の一部は、リアリティ・ショックが従業員エンゲージメントに及ぼす負の影響を緩和する媒介的役割を果たしていた。

以上より、訪問看護の業務特性を踏まえた段階的かつ焦点化されたオンボーディング施策の重要性が示唆された。

キーワード：訪問看護、リアリティ・ショック、従業員エンゲージメント、オンボーディング